

第 84 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2020 年 12 月 18 日 (金) 15 : 30~16 : 18
- 場 所 : オンライン開催
- 出席者 :
 - 〔学外委員〕
石田委員、今井委員、奥委員、嶋津委員、名取委員、長谷川委員、林(康)委員、
板東委員、藪中委員
 - 〔学内委員〕
田中学長、増山理事・副学長、横道理事・副学長、小島理事、木島副学長、黒
澤副学長、道下副学長、岡本大学運営局長
 - 〔オブザーバー〕 田代監事、林(礼)監事
- 欠席者 :
 - 〔学外委員〕 林(文)委員
 - 〔学内委員〕 高梨副学長

I. 審議事項

特になし。

II. 報告事項

1. 次期学長候補者の決定について

石田委員(学長選考会議議長)から、次期学長候補者として、田中明彦現学長を選考した旨の報告があった。

2. 本学における給与改定について(書面審議結果報告)

岡本大学運営局長から、書面審議を行った本学における給与改定について原案どおり承認された旨の報告があった。

3. その他

特になし。

III. 協議事項

1. 授業料の改定について

田中学長から、現在 2022 年度からの授業料を値上げし、それによりデータサイエンス教育を充実することを検討したい旨の説明があり、協議が行われた。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：本学学生は奨学金受給者が多いが、値上げをした場合、奨学金は引上げをしてもらえるか。値上げにより直接影響を受ける学生の割合はどの程度か。

△：留学生の 9 割程度は何らかの奨学金を受給している。日本人学生のうち、派遣学生の授業料負担の在り方は派遣元により異なるが、多数が社会人学生であることから値上げにより経済的に困窮するケースはそれほど見込まれないように考えている。また、授業料減免による支援も考えられる。

△：値上げにより、奨学金機関が奨学生数を減らすなどの影響が出てくるという可能性はある。日本人学生の派遣元である地方自治体、省庁が値上げに対してどうお考えになるか、出願にどの程度影響するかという点は直ちには判断ができない。

○：派遣元への説明が非常に大事である。派遣元にとって値上げでどういったメリットがあるのかということをお納得していただけるかどうか。

△：しっかり説明していかなければいけない。現代社会におけるデータサイエンス教育を一層拡充し、統計、計量経済等のリテラシー向上の機会が増えることは、派遣元にとってメリットがあると考えます。

○：金融界でも統計・確率は必須、重要である。データサイエンス教育の充実について、人件費と設備投資まで含めた計画はあるか。その計画に対して、見込まれる増収は見合ったものであるか。先行して授業料を値上げしてきた大学の中で、用途を特定して値上げしたケースはあるか。

△：先行大学は一般的な増収のために値上げをしてきたと認識。本学は小規模大学であるため、値上げに見合った改革をしなければいけないと考えている。値上げによるネガティブなインパクトを打ち消し、入学希望者を増やすような側面を用意しておくことが必要であり、学生獲得の方策等を考えていく必要がある。見込まれる増収は、十分足りるということではないが、大学の規模から考えて何とかなると思っている。また、趣旨にご賛同いただける民間企業等からの寄附講座等をいただけるといいと思っており、そのための活動も必要、経営協議会委員の皆様からのご支援していただけるとありがたい。

○：本学の学生はそれぞれの分野のエキスパートになるというより、コンセプトを理解し、それを応用して生産性を上げるようにできるかということをおぼることが重要である。

○：授業料値上げによる増収分は、データサイエンス教育の充実に使う方針ではあるが、場合によっては他の用途に使う可能性はあるだろう。例えば、本学施設は、竣工からある程度時間がたち、修繕が必要になっている。目的積立金も活用しつつ、データサイエンスの強化を中心に、全体として有効に使って欲しい。

○：新型コロナウイルス感染症により大学はリモート講義しか実施できないなどの大きな影響を受けている。授業料値上げはタイミングを見計らうことが非常に大事である。2022年4月の値上げはいいタイミングかと思うが、先行して授業料値上げをした大学で新型コロナウイルス感染症の影響で何か問題があったか確認する必要があるように思う。値上げは、学生への処遇、サービスがより改善されるというタイミングで実施していただきたい。

△値上げを想定している2022年までには新型コロナウイルス感染症が収束し、正常化に向かいつつある状況で値上げを行えるのが望ましいと思っている。

○：データサイエンスに関する教育の充実を打ち出すというのは非常に重要。学生数が少ないため、授業料値上げのインパクトは、ある意味では限定的であるため、データサイエンスの教育の充実を前面に出し、企業等から支援いただく、あるいは企業との連携を進めること、また、こういった人材育成の必要性をアピールし、本学が社会に対してインパクトを与える人材育成に取り組んでいくことを認識していただく機会になると思う。企業その他各方面への働きかけや予算要求、体制、基盤の充実を進めることは意義がある。

○：行政官のデータリテラシー向上は、政府方針に合致しているため、予算要求も検討したらどうか。

2. 本学における新型コロナウイルス感染症への対応について

田中学長から、本学における新型コロナウイルス感染症への対応について説明があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○学外委員、△：本学)

○：国内同窓会をウェビナー形式で実施した。修了生は日本各地にいるため、ウェビナー方式での開催は参加しやすく効果的であった。

○：通常時と比較して、講義の進捗状況やフィールドワークを含めた研究の進捗等で問題点はあるか。

△：個々のケースでフィールドリサーチ、対面インタビュー等は実施困難になってはいるが、オンラインに切り替えるなどの努力をしている。カリキュラムの一部にフィールドトリップ等が組み込まれている場合があり、代替として、近隣での実施に切り替える、時期を延期するなどといった影響は出てきてはいる。

△：講義についてはほぼ支障なくオンラインを活用して実施できている。今年度からチュートリアル（少人数のグループでの指導）を開始しており、個々の学生に目配りができるという点でこの状況下で効果的である。

3. その他

特になし。

以上